

【補足】 集計式やUnique節

実行時

Countries List	
Country	Quantity
France	3

留意点:

- これまでに出てきた式 (Sum、Average、Max など) もインライン式に使用できる。

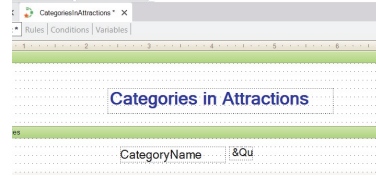
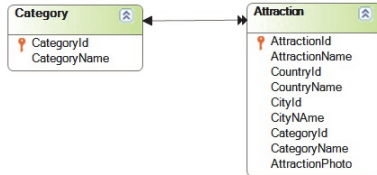


このプロシージャーは既存のプロシージャーに基づくものなので、PDF として出力するために必要なことはすべて設定済みです。実行して結果を確認します。期待どおり、観光名所が 3 つあるフランスのみが表示されます。

ここまで、インライン式を使って計算結果を簡単に取得する 2 つの例を確認しました。ここでは Count 式を使った例のみを紹介しましたが、これまでに紹介したすべての式、たとえば、Sum、Average、Maxなどをインライン式で使うことができます。

インライン式 + Unique 節

インライン式でデータを結合することも可能



すべてのカテゴリのリスト (エレメントの繰り返しなし) を返す。それぞれに対応する、記録された観光名所の数も表示する。

```
Print Title
For each Attraction
  Unique CategoryId
  &Quantity = Count(AttractionId)
  Print Categories
Endfor
```

For Each コマンドのベーステーブル:
ATTRACTION

式でナビゲートされるテーブル:
ATTRACTION

このコースのコントロールブレイクの章では、For Each コマンド内での Unique 節の使用について、概念と例を説明しました。

そこでは、観光名所が登録されたカテゴリを表示するリストを定義し、カテゴリの名前が繰り返されないようにしました。
ここではさらに 1 つ要件を追加します。カテゴリ名の隣に、観光名所の数を表示することにします。

観光名所の数を計算するために、インライン式 `&Quantity=Count(AttractionId)` を宣言します。

For Each コマンドのベーステーブルは、インライン式のベーステーブルと同じ ATTRACTION です。

そのため、Count 式は、その評価においてコンテキストから暗示的な条件を追加し、Unique 節で宣言された項目属性を対象にすべての観光名所を数えます。

ナビゲーションを見ると、この式は Unique 節で宣言された (与えられた) CategoryId 項目属性について、観光名所のすべてのレコードを数えることが分かります。

